

(112) 栃木県上都賀郡の喜久沢(菊澤)鉦山

この鉦山跡も、参考文献(1)を手引きに探査をし、1回の探査で、現地を確認することができた。現地への経路は次の通りである。鹿沼市中心部当たりからは、板荷を目指し、164号線を北上していく。道は東武日光線を左に見て併走するようになってくる。板荷の駅手前、おおよそ1kmの当たりの所で、左にまっすぐに伸びている側道に入っていく。踏切を渡り、橋を渡って、道なりに、西行して行く。踏切から約1.2km当たりの林道の両側に100mほどの距離離れて2カ所の坑口群跡がある。1つの坑口群は、沢底水準であり、もう1つの坑口群は沢より10mほどの高さにあった。これら坑口群は、草木の生い茂った時期には、林道からの視認は困難かもしれない。本探査記の記事に信頼をおいて、草木をより分けていけば、良いであろう。

探査日 2012年 3月

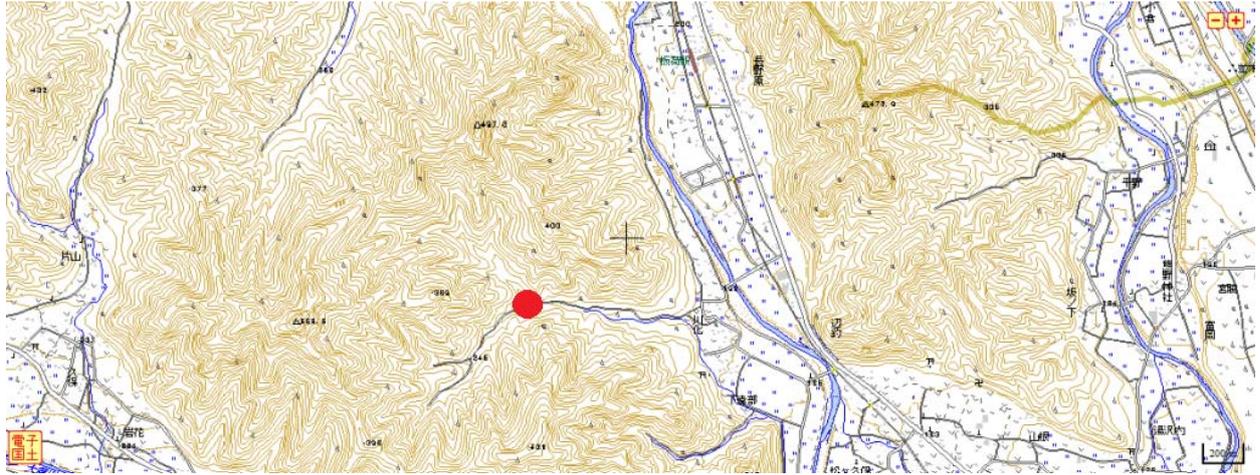


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸が喜久沢鉦山跡を確認した位置。



図2 図1の部分拡大図。鉦山跡は踏切より約1.2km。林道を挟んで2カ所にある。その間の距離は約100m。緑丸が坑口跡、茶色ベタがズリ。共に多数の坑口があり、マンガン鉦脈に沿って掘られたものようである。

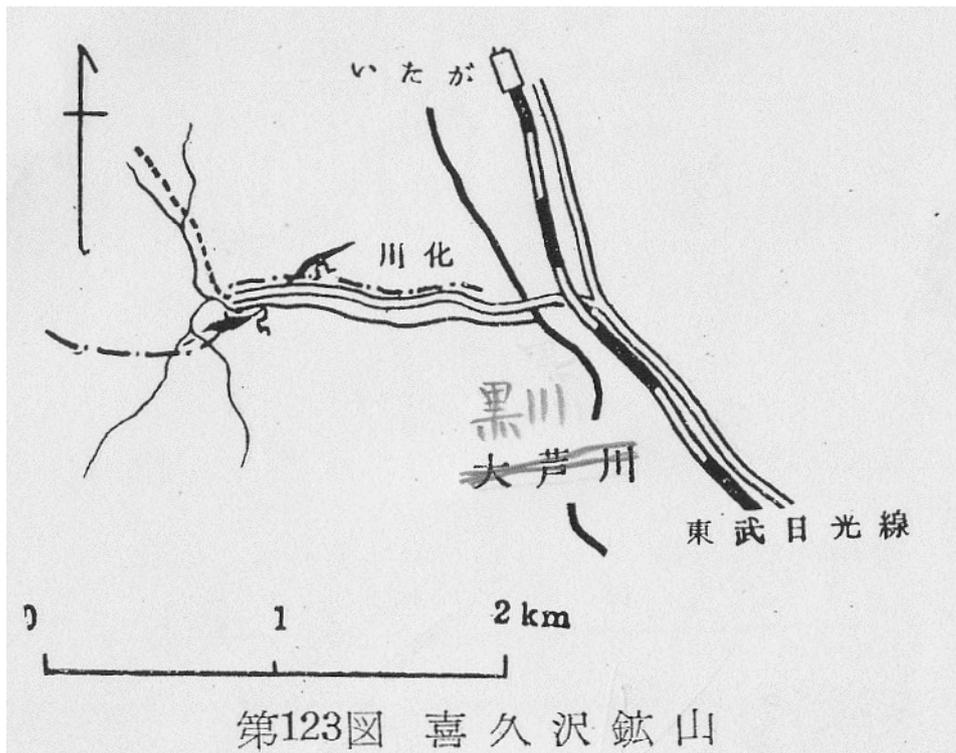


図3 参考文献(1)より複写掲載。ほぼ現在の地形図とはあっている。図中の大芦川の名前は、黒川の名前の間違いと判断した。坑口も探査結果と良く一致している。

鉦山跡写真



写真1 北に向かっている164号線。約1 km前方の左側に、板荷駅がある。目の前に川化のバス停留所がある(2012年3月現在)。この所で、左側にのびている側道に入っていく。



写真2 踏切を渡ってから、道なりに西の方へと林道を進んでいく。が、ここまで来ると、西へ行き過ぎである。鉱山跡はもう少し手前にある。



写真3 沢の左岸上部にあった坑口群。幾つもの坑口が一直線に並んでいる。露頭鉱脈に沿って掘り進んだのであろう。

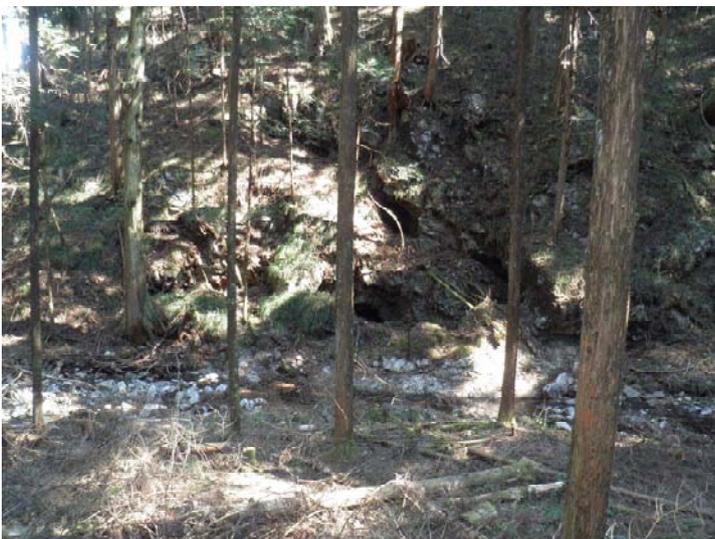


写真4 林道から見下ろした、沢の右岸にあった坑口群。河床とほぼ同じ水準にある。

採集鉱物写真

特になし。

参考文献

- (1) 「日本のマンガン鉱床」、吉村豊文、マンガン研究会資料、1952年。